

<研究内容>

『子ども主体で問題解決ができる理科授業』

(助成期間：2016年1月1日～2017年12月31日)

問題解決の活動に取り組んでいく中で養われる力が科学的思考力である。そこで、問題解決の活動に対して主体的に取り組めるようにするため、以下の3点を手立てとして、14回の研究授業で実践を行った。

- 1 科学的に解決したいという意欲が持てる問題を見出したり、仮設を設定したりできるようにする学習活動の工夫
- 2 どのように学ぶかということを子ども自ら考え、選択したり決定したりしながら、自分の発想で問題を解決できるようにする学習活動の工夫
- 3 考察の根拠として適した観察・実験の結果を得られるようにしたり、見つけた自然の事物・現象の規則性や性質を五感で確かめられるようにしたりできるようにする学習活動の工夫

その結果、問題解決の活動をやり遂げようとする姿、様々なことを関連づけ、問題解決の活動を自ら設定して取り組む姿が多くみられるようになったという成果が見られた。